

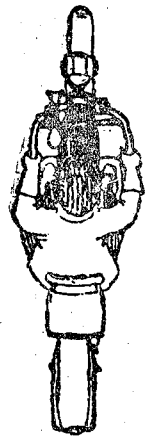
# 通信

◎東京だより

田中生

肅啓、大正十三年も二旬を出でずして暮れむとし、都の巷は災前と同様緊張味を表はし居候得共、不況に始まり不況に終らむとする我經濟界の年末は、倒産破産相踵て出することと被存候、一方官場も亦行財兩政整理の爲に誠首者多數を續出し、民間事業も亦それに倣つて事業を縮少し多數の失業者を觀ること、被存、是等失業者の多數は、來るべき新年に於て如何なる事業に従事すべきやを心配しつゝ、越年する人も多かるべく、正月の餅も不安裡に喰はざるべからずとせば、新年に於ける大計も躊躇逡巡するに至るべく同情の念難禁候、殊に官場に於ける俸給失業者は民間事業に於ける夫れと異り經濟

界の好不況に關係せず一定の俸給に甘んじ國の爲社會の爲に活動したるものが一朝我財政整理の犠牲に供せられたるものにして、其の蓄財は多からざるべく一層同情の念を強め申候併しながら秋風の後春風の來るべきは自然の理なるを以て餘り悲觀するに及ばざるべく、新職業を發見し活動の新天地を求めて來るべき新年の活動を劃策することこそ必要と存候に付倍舊の勇氣を出して迎春せられむことを切に望むと共に、誠首を免れたるものは、是等犠牲者の爲に奢侈を慎み深き同情の念を以て其に接するの心掛けを必要とすべく吾は勝者なりとの態度を持するが如きは吾人の探らざる處に御座候。模範的惡路の批評に伴ひ其の存在を疑はれたる東京市道路局も、堀切職務管掌時代に於て改造を計畫せられ、遂に局長の交迭を觀るに至り、本會理事内務省土木試験所長の牧彦七博士が就職致し候、前局長丹羽勲彦博士は就職三箇年、兎角



の批評を受けたるにせよ、今日當地に於て改良道路の築造を  
目撃するに至りたるは同博士の遺物と可申、唯工事の施行遅  
々たりしと、採用せられたる工法が餘り完全ならざりしこと  
が批難の目標たりしに非ざるかとも被存候得共、兎に角帝都  
路政界に於ける恩人として吾人は滿腔の謝意と敬意を表する  
に吝ならざるものに御座候。

新局長牧博士は精力絶倫の人、曾て内務省技術課に在りて  
道路法制定時代に於て技術方面に亘る立法に參劃し、獨特の  
研究心を發揮して今日道路技術に關する法制が歐米各國の夫  
れに比し優るとも劣らざる地位を占むるに至りたるは同博士

の賜と言ふべく我國道路工學のオーソリチーとして斯界に貢  
獻せられたることは今更こと新らしく申上ぐるまでも無之、  
此人を得たる東京市は望外の儲けものを爲したるものと可申  
候併しながら内務省に於ける仕事たるや道路工事の實施を掌  
るものに非ずして之を指導監督するを任とするものなるが故  
に、其の所論常に机上論に走るの傾ありとは、地方に於て工  
事を擔任する者の批評にして吾人も亦此評言に對し全部を否  
認するの勇氣は無之、内務技師の一部に此傾きあることを自  
認するものに候得共深遠なる學理と多數の經驗を有する牧博  
士に於て此批評の當らざることは茲に申すまでもなきことに

御座候しかし、世上かゝる批難ありとの心掛けを以て、一日  
も早く我が帝都道路をして、市民の怨府たる状態より離脱せ  
しめむことに力められむことを切望する次第に御座候、唯だ  
茲に苦言を呈したきことは、氏の如き絶倫なる精力は萬人の  
具備するものに非ざるを以て、人にて之を望むは不可能のこと  
に有之、殊に近時大學出の白面蒲柳の學士に對して然りとす  
る處、氏が職務に熱心の餘り時に人に之を強ひむとするは氏  
を誤解せしむるの因と爲るを以て、此邊特に御注意を願たき  
ものに御座候。

新聞紙の報道する所に依れば、牧博士の就職に依り道路局  
技術家連に動搖を來したる趣に有之候、何が故に動搖するや  
は吾人の知らざる所なるも、由來同局には鐵道系統に屬する  
技術家と、非鐵道系統技術家との兩派を生じ、之を兩派に關  
係なき大藏省出身の丹羽博士が統御したるも内務省系統に屬  
する牧博士の入局が著しく鐵道系統技術家の脅威を招きたるも  
のに因る由に御座候、由來鐵道省に關係を有したる事務官技  
術官の多くが、常に黨派を立て官業に或は民業に相争ふの醜  
態は常に世人の鑿鑿する處に有之、復興局に於ても亦此醜態  
あるやに承居候、固とより官吏が生活する上に於て、意氣相  
投合するものを求め、將來を約するが如きは敢て差支なきこ

とに候得共、是等が黨派を組織して公務を執行する上に相排斥するが如きは、綱紀肅正上斷じて許すべからざることに有之候牧博士は各種の人を容るゝの雅量を有することは吾人の信じて疑はざる所、何人も安んじて其の下に働くことゝ存候得共、若し如上の因習を打破して市道路行政を改造する爲に局長の交迭を觀たるものとせば、此際適當の措置に出て改造の目的を達成せむことは吾人の望む所に御座候、若し夫れ技術上の所見を異にして動搖するものに候はゞ此際斷乎として是等を誠首し新方針を樹立するを適當とすべく、鐵道専門の技術家が道路技術に従事せむとするは畑違ひにして、之に完全なる道路技術の應用を求むるは難事に有之、復興局に於ても同一の批難あるは當然にして是等を放逐して始めて完全なる道路工事の實現を觀るに非ざるかと存候。

牧所長の退職に伴ひ、本會幹事内務技師牧野雅樂之丞氏が内務省土木試験所長に任命せられ候、同氏も亦内務省第一技術課に在りて、専ら道路技術の指導監督事務に従事し斯界に定評あるの人、定めて良好の成績を擧げらるゝことゝ存候。本試験所は開設以來二ヶ年餘の歲月を経過し、此間十分研究されたることも多々可有之義と被存候得共、未だ一回も試験成績の發表を觀ず、吾人をして聊か失望せしめ申候、固より

深遠なる學理に基礎を置き試験の成績を發表することは、短日時の克く爲す能はざる處に候得共、承る所に依れば牧博士在職當時一部確定したるものもあるやに付、一日も早く之を公表して道路技術の啓蒙に資せられ、徒に寶の持ち腐れを爲さざる様新所長に呉々も希望する次第に御座候。

政府の道路改良費豫算の編成に關しては、屢々報道致候處愈々三百五十萬圓を以て經理することに確定致候、本豫算が助成的性質を有すると、其の豫算の形式が繼續費に非ざることに依り、いつも財政緊縮の場合に於ては其の運命薄弱にして、今回も亦當初は全部削除の噂有之、若し其の噂の如くんば我國路政の進展上默視し難きものあるを以て本會は緊急理事會を開き之が善後策を攻究したる結果、顧問<sup>○</sup>溢澤<sup>○</sup>老子<sup>○</sup>留<sup>○</sup>理事<sup>○</sup>山田<sup>○</sup>英<sup>○</sup>太<sup>○</sup>郎<sup>○</sup>の兩氏が理事會決議に係る建議を携帶して、加藤首相を始め内藏兩大臣に會見し其の全部削除の否なることを陳情したることは前號にも報道したる處に有之候處、其の後新聞紙の報道する所に依れば、内務省要求額四百二十五萬圓を二百萬圓に減額して査定したる趣なりしを以て、若し此の如き僅少の豫算を以て經理するものとせば、現に工事着手中に屬する國道改良工事に對する補助も亦一部廢止の運命に陥るの外六大都市街路改良に對しては全部其の補助を廢止す

るの外なく由々敷問題を惹起するを以て原案の要求を承認せしむる必要有之、茲に於てか又々濫澤子、山田理事の出馬を促し藏相に對し膝詰的に陳情を再行することに相成、兩氏は其の陳情を以て最後とすべく隨分思ひ切つたる陳情を爲し大に當局を動かしたるやに承り居候、一方原案提出者たる内務省は之が爲に會議を開催すること數回に亘り閣議に於て飽くまで原案を維持することに決定し、其の要求度合は舊に倍するものあり、當の責任者たる本會理事長岡土木局長の如きは如何なる豫算を犠牲にするも本豫算の通過に力めざるべからずと爲し、深夜大臣其他に會見して東奔西走至らざるなく假令大藏省の査定通りに削減せらるゝも吾人は長岡局長の活動に對し滿腔の謝意を表する所なりしに、大藏省も亦査定の否なることを承知したるものや前査定額を變更して之を三百萬圓と爲し土木局長に交渉を開始するの運に立至りたるも、固より最低額を要求したるものなるを以て之に應ずべくもなく、又々閣議に於て論争することゝ爲り遂に、大藏省は更に五十萬圓を増加すべく妥協し茲に漸く本豫算の原案を確定するに至りたる次第に御座候。

道路改良費豫算の成立に關し、本會の採りたる行動の概況と當局の活動は以上の通に候得共、茲に多大の感謝を拂はざ

るべからざるものは、本會評議員男爵山根武亮氏の活動に有之候、男爵は常に道路改良の急務を力説し、本紙上に於て其所見を發表せられたることは讀者諸君の熟知せらるゝ所と存候、道路改良費削減の悲報、新聞紙に依つて報道せらるゝや自ら老軀を提げて其の否を鳴らし、本豫算を否認するが如きことあらば、政府が曩に通牒し公表したる道路費補助の意思は撤回さるべく、何人も約束を自己の便宜に依りて破棄するが如きは事理の許さざる所、若し政府が公表し又は通牒したることを以て契約に非ずとし補助を廢止するが如きことあらば、地方は何を以て政府を信賴するを得るやとは男爵の眞劍味の立場にして、信義を重んぜざる内閣は之を倒壞せしむるも尙飽き足らずとし、貴族院議員間には勿論各政黨首領を歴訪して改良費維持の運動に盡され、日も尙ほ足らざるの感ありたるは吾人の満足する所に有之、世は擧げて私利私慾の爲に東奔西走血肉をも食まむとするの徒多きとき、此奉公的男爵を得たるは我國路政の爲欣賀に堪へざる所に御座候。

以上の如き徑路を以て成立したる大正十四年度道路改良費豫算に於ては、従前通牒されたる既定補助を支出することを得るも、既に補助を受くるものとして従前計畫を樹立したる國道改良事業中捨て置き難きものに對しては、既定補助のも

のを幾分減少して更に補助せらるゝの趣に有之、此くして我國路政は歩一步改良の域に進むかと想はれ路政の驥尾に附する吾人は快哉を叫びて已まざる處に御座候、然るに某縣の如きは大正十一年度より政府の補助指令を受け着手中に屬する、我國交通の最大幹線たる國道の新架橋工事を廢止せむとする趣承り、餘りに世情に通ぜざる施政に一驚を喫し申候。

固より財政緊縮の爲には既定事業と雖之を廢止若は繰延するの必要あることを俟たざる所に候得共、其の架橋の効果が地元縣に於て薄弱にして他府縣を利するものなりとの、地方的偏見に支配され國道の改良が帝國民共同生活上地方的負擔に屬せしめられ、之を負擔することが共同生活上必要なる事理を辨へずして、國道改良工事を廢止したるが如きは吾人の唾棄すべき地方施政にして、此種誤られたる方針を持する地方長官は我國路政の爲に一日も早く其の職を辭し其の不明を天下に謝せむことを切望する處に有之、此種地方長官の施政は尙他にも可有之、是等は十四年度地方豫算に表はるゝを以て更に論評を加ふることゝし是にて擱筆可致、終に臨み讀者諸彦が目出度越年され多幸なる新年を迎へられむことを望み申候。

### ◎ 紐育便だより

敬具

中 元 生

左記は淺野物産株式會社紐育支店の主事申元好助氏の佐藤内務技師に寄せたる書翰の一部なり申元氏は米國「スタンホード」大學卒業生にして専門以外特に道路に關し趣味を有し道路の研究者として北米合衆國に遊ぶ者は多くは氏の援助を得つゝあり

貴翰拜誦、承り候處故國に於ける道路の改良に關する輿論は極めて不振の趣誠に遺憾に不堪候今日に於ける日本の政策は誤れる觀念に基立せるものに非ざるかと愚考仕り居り候も日本にして文運の進展に關し諸外國に伍せんと欲せば先づ以て道路を常に良好に保持すること緊要なるものと確信仕り候之が爲には斯る少額（三十箇年間繼續事業として二億八千二百萬圓）の費用を以てしては到底其目的を達し難く之を北米合衆國の例に見るにテキサス州のみに於て五千萬弗西部地方の六州に於ては十億弗の巨資を投じ茲數年間に於て道路の改良を實行することに決定せられたる次第に有之又「ナシヨナル」鋪裝協會（ナシヨナル鋪裝とは天然のロツク・アスファルトの如きものを人工的に製造特許したるものにて「ロスアンゼルス」市に本社を有す）の「リンスレー」氏の言に依れば「カリホルニヤ」州のみに於て本鋪裝を二百五十哩に施行する工事を請負ひ又現に「テキサス」州に於て各地に盛に施行中の趣

聞き及び申候現在日本に於けるが如き事業界の趨勢より考察 事業を起すに今日程の好機は再び來らざるべく政府は益々此  
すれば政府當局者として考慮を拂ふべき重大問題は失業者救 の種事業に對し支出すべき金額を増加すべき様國民の覺醒を  
濟問題程緊急を要するものは無之從て道路の築造の如き土木 希望して止まざる次第に御座候。

### ○「コールターピッチ」と「トルオール」とに依る新

#### 「アスファルト」の發明

從來鋪道材料として使用せられてゐる「アスファルト」は、其の主材料を石油系統に屬するものより探つてゐたのであるが、今回池田甫と云ふ人は「コールター、ピッチ」系統のものを主材料とする新「アスファルト」を發明し、特許（第六一〇六五號）を得た。

元來「コールター、ピッチ」系統物は、石油系統物と非常に其の性質を異にし、温度が上昇するに従つて急激に軟化するので、鋪道材料としては不適當のものとして居た。然るに本發明は「コールター、ピッチ」に少量の「コールター」若くは「トルオール」を加へることによつて、「コールター、ピッチ」系統物の有する缺陷を除くことが出來、從來と同様の鋪道材料を製し得るに至つた。即ち「アスファルト」は常溫に於て適當の軟度を保つのみならず、温度が上昇しても軟化することなく、且つ從來の「アスファルト」より安價に出來るから鋪道材料としては適當なものであると。

（特許局だより）